

平成 25 年度第 1 回松阪市環境パートナーシップ会議全体会

日時 平成 25 年 12 月 20 日(金) 午後 1 時～午後 2 時 20 分

場所 松阪市役所本館 5 階大会議室

出席者

24 名

会長

朴 恵淑(三重大学理事・副学長)

市民・市民団体 9 名

鈴木博、滝本玲子、林田淑、魚町一の会(石村)、嬉野アイリス(小坂)、健康・福祉・環境日本一をめざす市民会議(中西)、松阪市飯南町生ゴミ堆肥化研究グループ(辻根)、松阪市自治会連合会(久瀬)、三雲アイリス(中村)

事業者 8 社

生活協同組合コープみえ、シャープ株式会社、東海ゴム工業株式会社、パナソニック株式会社 A.I.S 社、マックスバリュ中部株式会社、株式会社松阪協働ファーム、松阪北部商工会、ヴァーレ・ジャパン株式会社

オブザーバー

三重県松阪地域防災総合事務所

事務局 5 名

刀根環境エネルギー政策担当参事、武田環境課長、山口環境推進担当主幹兼係長、環境推進係(垣本、森)



議事の内容

1. 平成 25 年度の活動報告
2. 今後の活動について

事務局より平成 25 年度の活動について報告

会長： パートナースhip会議の周知には、啓発アンケートの結果からもわかるように、行政の力が大事と思われる。会議の広報誌を発行するのもいいが、市のホームページトップに掲載する、行政チャンネルを利用する等、行政にはより一層の「頑張り」をお願いする。

会員： 市民活動センターには、環境問題に取り組んでいる団体が多く登録されている。このような団体や、地域に密着した住民協議会にも呼びかけを行い、一緒に環境問題を解決していく方向にもっていったらどうか。また、パートナースhip会議のサポーターを増やし、様々なイベントに手伝いをお願いするような仕組みを作ってはどうか。

会員： 今年の環境フェアは、開催日を 1 日に凝縮してアウトドア型にしたことで、今までよりも充実した結果が得られた。これは、パートナースhip会議にとって、非常に大きな周知になったと思う。今後は、会員の

環境認識のレベルアップを図る取り組み、例えば環境学習などが必要になってくる。また、縦割り行政が様々な活動の妨げになっている場合が多いので、プロジェクトチームを作って、関係部署からメンバーを招集するなど、行政間におけるより密なネットワークを活用していくべきだと思う。

会員： 縦割り行政による弊害が非常に多い。このパートナーシップ会議が、行政と環境団体や事業者とのパイプ役になっていくのが望ましい。

会員： 弊社は、地域貢献活動を実施している。一方通行的な活動にならないように、地域の理解を得るためにも、周知活動は重要だと思う。そのため、ホームページ以外にも情報誌などの紙媒体を使つての周知も行っている。相手に受け入れてもらうために、受け取り側目線に立って、わかり易い言葉を用いるなど心がけている。

会員： 三重県には M-EMS があるが、取得するだけで満足してしまうらしく、実態は連携無し、認知度無しの状態である。そこで、今年「M-EMS クラブ」を自発的に立ち上げ、台風 30 号の被害を受けた地域への募金活動などを行っている。このように、仕組みを作りかえることが大事だと思う。啓発アンケートで「環境にやさしい行動」をしている割合が 95% 以上あるが、活動一つで満足している状況であり、その一歩先に進めるためにもバージョンアップを図っていく必要がある。

会員： 住民協議会、市民、学校、事業者とのネットワークをつなげていくことが、このパートナーシップ会議の重要な役割である。

会長： まず、各チーム、プロジェクト毎の今以上のレベルアップを目指すために勉強会や交流会を開催する。あらゆる分野とのネットワークの充実を図る。パートナーシップ会議の周知徹底の戦略を練る。様々な分野と連携をとるためのコーディネーターとしての役割を担う。パートナーシップ会議が、人と知恵のプールとなるように、事務局が中心となって活動していく。半年後の全体会で、どれくらい変化があったか確かめる。今の認知度が低い状況では、会議の愛称を募っても出てこない。半年後には自然と愛称が出てくるように、活動していく。

会員： 住民協議会のアンケートは早急にやってほしい。住民協議会の実態把握とその可能性について聞いてほしい。

会長： 住民協議会や自治会だけでなく、教育委員会との連携も事務局にはお願いしたい。各プロジェクトチームの活動も、引き続きお願いする。

以上で、本日の全体会は終わります。

※会議終了後、緑のカーテンコンテスト表彰式を行った。